

インターバンクの声（2015年2月20日）

前日に発表された1月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事録が、過去最低レベルにある政策金利の早期での変更の可能性が薄れたと解釈され、発表の直後は売られてしまったドルだったが、昨日は再び利上げ見通しに大きな変化はないとして反発傾向に転じた。そもそも数人のハト派寄りとされる投票権のある委員会メンバーに入れ替わった会合でもあっただけに、冷静に見直せば突然利上げ見送りのスタンスに変わったわけではないことにも気が付いたのだろう。この市場の反応を見ると、もうさほど注目する必要はなくなったとされる雇用統計だが、3月6日の発表がやはり気になるところだ。また、その頃にはギリシャの債務問題も決着が付いているかも知れないが、次回3月18日のFOMCでいよいよ利上げ時期が図れることになりそうだ。今週末はギリシャの金融支援の延長申請をドイツが認めるまでユーロのポジションを取ることが難しそうなので、プロの投資家も為替取引よりも株の取引に気持ちが行ってしまっている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。